

武田聖子先生 翻訳

牟田広実先生 仲村和子先生 竹村充代先生 関奈緒先生 高橋裕子 監修

Varenicline バレニクリン

- 2011/3/10 更新。2011年3月10日午後12:17更新:コクランレビューに、バレニクリンの無煙タバコの禁煙に対する効果を評価した1つの試験あり (Cochrane Database Syst Rev, 2011年2月16日)
- バレニクリンは禁煙開始6-12ヶ月の時点での有効性が認められる。また、ブプロピオンよりも効果あり(Cochrane Database Syst Rev, 2011年2月16日) [更新を見る](#)
- バレニクリンは、無煙タバコの禁煙継続率も上げる可能性がある(BMJ 2010年12月6日) [更新を見る](#)

Related Summaries:

- [Tobacco use disorder](#)
- [Counseling for tobacco cessation](#)
- [Bupropion for smoking cessation](#)
- [Nicotine replacement therapy for smoking cessation](#)

概論:

- バレニクリン酒石酸(Chantix, 日本ではChanpix)はFDAに禁煙治療薬として承認された。
- バレニクリンはニコチン受容体の拮抗剤であり、禁煙による離脱症状や、タバコによるニコチンの作用をブロックする。
- バレニクリンは、行動の変化や興奮、抑うつ気分、自殺企図・未遂・完遂といった深刻な精神神経症状を引き起こすことがある。
- バレニクリンは、プラセボ、ブプロピオン内服、ニコチンパッチに比べ、禁煙継続率が高い可能性がある([level 2 \[mid-level\] evidence](#))
- バレニクリンは、心血管疾患患者においても禁煙継続率を高める。([level 1 \[likely reliable\] evidence](#))
 - 禁煙開始予定の1週間前より服用する

- 食後にコップ一杯の水と一緒に服用する。最初の 3 日は 0.5mg 分 1 で、4 日目から 7 日目までは 0.5mg 錠を 1 日 2 回服用、その後 11 週間、1mg 錠を 1 日 2 回服用
 - 最初の 3 日は 0.5mg を 1 日 1 回服用
 - 4 日目から 7 日目までは 0.5mg 錠を 1 日 2 回服用
 - その後 11 週間、1mg 錠を 1 日 2 回服用
 - 禁煙成功のために、追加の 12 週間服用が承認されている
 - 重度の腎機能障害 (CCr が 30mL/分未満) の場合は、最大用量 0.5mg 錠・1 日 2 回、血液透析患者では最大 0.5mg 錠・1 日 1 回の投与にすること
- 臨床試験において目立つ有害事象は、嘔気 (30-40%)、頭痛、嘔吐、腹部膨満、不眠、悪夢、および味覚障害であった。
 - 妊娠中: カテゴリー C

(監訳者注: 動物実験では胎児への有害作用が証明されているが、適切な対照人においての研究が存在しないもの。しかし、その薬物の潜在的な利益によって、潜在的なリスクがあるにもかかわらず妊婦への使用が正当化されることがありうる。)

▼Warnings

警告:

精神神経学的症状と自殺の危険性

- うつ、自殺企図・未遂・完遂などの深刻な精神神経症状が、禁煙に対するバレニクリンの使用で報告されている。^{1 10 11 12 13} ([See Neuropsychiatric Symptoms and Suicidality under Cautions.](#))
- このような症状は、精神疾患の有無にかかわらず出現している^{1 10 11 12 13}。また、統合失調症、双極性障害、大うつ病などの重症な精神疾患患者に対する安全性や効果は確立されておらず、バレニクリン服用中に精神症状の再発や悪化を認めることがある^{1 10 12}。
- 抑うつ気分はニコチン離脱症状の可能性もある。しかしながら、バレニクリンを服用しながらも喫煙を続けている患者にもこのような症状が現れることがある¹。
- ほとんどの症状はバレニクリンを服用中のみに現れるが、服用中止後に出現したという報告もある^{1 10 13}。

- バレニクリンの投与を行うすべての患者の精神神経症状(行動変化、イライラ、興奮、うつ傾向、そして自殺関連の行動(自殺企図・未遂・完遂))を観察すべきである [1 10 12](#)。
- もし、興奮、イライラ、抑うつ気分、普段の患者と異なる思考や行動、自殺企図・未遂が見られた場合は、直ちにバレニクリンの服用を中止し、医師と相談すること [1 10 11 13](#)。
- これらの症状は服用を中止することで消失することが多いが、中止しても続く時がある [1 10 12](#)。そのため、症状が消失するまでは患者を観察、治療する必要がある [1 10](#)。
- バレニクリン治療による危険性と禁煙治療に対する効果を比較し、投与すること [1 7 10 13](#)。